

# ケンタッキー大学への長期滞在

理学系研究科 物理学専攻 博士課程2年 中口 悠輝

ALPS 長期海外派遣制度のお陰で、2015年10月から12月にわたる約3ヶ月もの間、米国のケンタッキー大学に滞在することができた。快く受け入れて下さった Sumit Das 教授と共同研究を行い、ギャップのある相から臨界点を横切ってギャップのある別の相へ入るような量子クエンチをかけたときのエンタングルメントエントロピーの振る舞いについてホログラフィックに調べていた。また、理論物理のグループにおいて、以前の僕の研究について60分間のセミナー発表もさせて頂けた。

教授はたいへんな人格者で、研究のみならずありとあらゆる面で助けて頂いた。研究室のポスドクの方々も良い人ばかりで、色々と連れて行ってもらうなどとてもよくしてもらった。研究室の方々と日々食事をともにすることで、英語で話す力もだいぶマシになったように思う。様々な国出身のポスドクや大学院生と、物理や物理業界についてのみならず、各国の経済や政治の事情、言語や民族および宗教について話し合えたことは本当に貴重な経験であった。英語は国際語であると実感し、これからも英語で話す力を磨いていきたいと強く思った。お世話になった人々に本当に厚く感謝したい。



(左から、B. S. Kim 博士、S. Das 教授、藤田博士、僕。  
撮影してくれた S. Pujari 博士、写ってなくてゴメン！)